

「運動の楽しさを味わい、主体的・協働的に学びに向かう児童の育成」

～「する」、「みる」、「ささえる」3つの学びを通して～

研究主題設定の理由

新学習指導要領の全面実施に際して、体育の学びに向かう姿勢、人間性を養う目的で、本研究主題を設定した。研究の初年度として、先生方からの意見を募ったところ、運動が苦手な児童でも楽しめるように、児童への指導を一步ずつ行っていきたくいと集約された。そこで、今年度は、「学びに向かう姿勢と人間性」に注目して、「運動の楽しさを味わい、主体的・協働的に学びに向かう児童の育成」と捉えることにした。

児童に運動領域の機能的特性「楽しさ」「魅力」に触れさせるとともに、実態に見合った手立てを講じ、真剣に運動に取り組むことを通して、「する」「みる」「ささえる」の3つの学ぶ姿勢を養うことができると考える。

研究の仮説

各運動領域を陸上運動、器械運動、ゲーム・ボール運動に分かれて、グループで研究分科会を組織した。今年度は特に、3つの運動領域の充実を図ることを、池袋第一小学校の課題とした。

「する」「みる」「ささえる」の3つの学びの合い言葉を共通理解し、児童の小さな技能の向上や運動の課題への気づきを喚起するスモール・ステップの学習段階を大切にして運動を親しむようにする。

この様にして、学ぶことが楽しく、運動の楽しさを味わい、児童が進んで協力し合いながら、学びに向かうことができるだろう。